区分61	専門分野 医療安全管理	授業科目名	医療安全管理学	単位数	2単位 （40時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	佐野　由佳	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
総合病院の医療安全センターに所属し、医療安全管理者の経験がある。院内で発生した医療安全に関する課題やリスクについて把握し、解決のために多職種と連携し組織横断的に活動している。
看護分野のみならず、すべての職種の役割と責務を把握し、安全文化の醸成を行う実践経験と知識を基に、医療安全管理学の講義と技術演習を行う。

◆授業の目的・目標
（目的）患者に安心・安全な医療を提供するために、臨床検査技師としての責任と役割を理解するとともに、必要な医療安全全般の知識・技術を学ぶ。
（目標）①医療安全の基本概念を理解し、医療事故の背景を説明できる。②医療安全に関する法制度・組織体制を理解し、自分の役割を言語化できる。③コミュニケーションエラーが医療事故につながる仕組みを理解し、適切な伝達技術（ISBARC等）を実践できる。④感染対策の基本（標準予防策・経路別予防策）を理解し、適切に行動できる。⑤KYTを用いて危険を予測し、対策を立案できる。⑥検体採取・静脈路確保・造影剤注入など、臨床検査技師に求められる基本手技を安全に実施できる。⑦医療倫理の視点から、患者の権利や意思決定支援について考察できる。

◆授業の概要・授業方針
医療現場で働く臨床検査技師として、学生自身が「患者の安全を守る主体」であるという視点を中心に学びを進める。
医療事故の歴史や制度、コミュニケーション、感染対策、KYT（危険予知訓練）、検体採取技術など、医療安全に必要な知識と技能を体系的に身につけることで、学生が将来の臨床現場で自信を持って安全な医療を提供できる力を育む。
授業では、講義だけでなく、動画学習、演習、ロールプレイ、実技トレーニングを組み合わせ、学生が「自分で考え、判断し、行動する」経験を重ねられるように設計している。

◆テキスト・参考資料等
最新臨床検査学講座　医療安全管理学　第2版
講師作成資料

◆成績評価の方法
筆記試験（設問に解答）：50%
課題レポート：50%

授業計画		チェック欄
第1回	リスクマネジメント①　医療安全管理の歴史　医療安全管理体制	
第2回	リスクマネジメント①　危機的管理と安全対策　医療安全教育	
第3回	リスクマネジメント②　医療事故、医療過誤の事例	
第4回	リスクマネジメント②　医療訴訟・紛争　法的責任	
第5回	接遇・コミュニケーション	
第6回	接遇・コミュニケーション	
第7回	医療倫理（各論）　検査の倫理規定	
第8回	医療倫理（各論）	
第9回	チーム医療	
第10回	タスクシフト/シェア	
第11回	リスクマネジメント③　KYT	
第12回	リスクマネジメント③　KYT	
第13回	感染対策（標準予防策、感染経路別予防策）	
第14回	感染対策（病院感染対策の組織や病院環境整備、感染症法）	
第15回	検体採取法（採血）、造影剤注入	
第16回	皮下グルコース検査、直腸肛門機能検査	
第17回	検体採取法（静脈路確保）	
第18回	検体採取法（静脈路確保）	
第19回	検体採取法（鼻腔、口腔、咽頭・喉頭、喀痰）	
第20回	検体採取法（内視鏡検体採取）、運動誘発電位検査・体性感覚誘発電位検査	

【授業方針（学習方法）】

学生が主体的に学び、実践力を高められるよう、以下の方針で授業を進める。

① 学生が「自分ごと」として考える授業
医療事故の事例や実際の現場で起きた問題を取り上げ、「自分ならどう判断するか？」
「どんな行動が患者を守るのか？」を常に問いながら学ぶ。
② 実技・演習を重視した体験型学習
・採血
・静脈路確保
・造影剤注入
・喀痰吸引
・鼻咽頭ぬぐい液採取
など、臨床検査技師が担う手技を実際に体験し、安全に行うためのポイントを体で覚える。
③ コミュニケーション能力の育成
医療事故の7割はコミュニケーションエラーが原因と言われる。
ISBARC、CUS、2チャレンジルールなどのツールを使い、学生同士でロールプレイを行いながら、
「伝える力」「聞く力」「確認する力」を磨く。
④ KYT（危険予知訓練）による思考力の強化
医療現場の写真や場面設定を用いて、
・どんな危険が潜んでいるか
・最も重大な危険は何か
・どうすれば防げるか
をグループで議論し、危険を察知する力を育てる。
⑤ 医療倫理・患者の権利を重視した学び
ACP、インフォームドコンセント、患者の自己決定権など、医療者として必ず向き合うテーマについて、
学生自身の価値観を整理しながら考える時間を設ける。
⑥ 現場で役立つ「判断力」を育てる
授業の最後には、毎回「今日学んだことを臨床でどう活かすか」を学生自身が言語化する時間を取り、
知識を「実践できる力」へとつなげる。